

単元名 私たちの国の音楽

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりについて理解するとともに、呼吸及び発音に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の特徴や反復と変化、声や楽器の音色、楽器同士の関わり合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかや演奏するかについて思いや意図をもったり、曲のよさを見出し、曲全体を味わって聴いたりすることができる。
- (3) 我が国に伝わる音楽や楽器に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070205_001

【教材名】越天楽今様（歌唱 共通教材） 春の海（鑑賞）

(P. 36～P. 39)

【準備等】鑑賞CD、範唱CD、リコーダー、鍵盤楽器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 歌詞の表す情景を思い浮かべながら、雅楽の旋律の特徴を感じ取って表現する。</p> <p>★雅楽のせん律を味わって歌おう</p> <p>○「越天楽今様」の歌詞の意味を理解し、情景を思い浮かべながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて楽曲の感じをつかむ。 ・難しい語句を理解し、朗読する。 ・平安時代の情景を思い浮かべる。 ・教科書の解説を読み、雅楽や今様について理解する。 ・七五調のリズムに注意して歌詞を音読し、リズムを意識しながら歌う。 <p>○雅楽や今様について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽「越天楽」を楽器の音色を味わって聴く。 ・雅楽や今様について、教科書の解説を読んで理解する。 ・「越天楽」と「越天楽今様」が同じ旋律であることをつかむとともに、楽器の音色の特徴を感じ取って聴く。 <p>○笛の旋律の特徴を捉えて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱に合わせて声の出し方を確認しながら歌う。 ・リコーダーで旋律を練習する。 ・リコーダーの旋律を合わせて歌う。 ・リコーダーと歌を重ねて歌う。 <p>○グループごとに「越天楽今様」の表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の情景や曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 ・グループ内で歌、リコーダー、伴奏の担当に分かれて表現を工夫する。 <p>例・声の出し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笛の旋律の演奏の仕方 ・笙のように鍵盤ハーモニカで演奏する方法 ・指導書のオプションパートを基に、鍵盤楽器や木琴を加える方法 <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表し、聴き合って気付いたことやよかったことなどを伝え合い、更によりよい演奏にする。 <p>○グループごとに発表する。</p> <p>3～4 箏や尺八の音色や奏法の特徴を感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴く。</p> <p>★日本の楽器の音色を味わって聴こう</p> <p>○「春の海」を、雰囲気を感じ取り、楽器の音色に気を付けて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲名を知らずに聴く。 ・どんな雰囲気がしたかや、聞こえてきた楽器について意見を交換した後、曲名と演奏している楽器が何かについて、教科書で確認する。 ・曲名から情景を思い浮かべて聴く。 <p>○作曲家宮城道雄についてや、箏・尺八の楽器について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏や尺八の音色に親しむ。 ・楽器に注目して個々の楽器の演奏を聴き、音色や奏法関わり合いについて気付いたことを発表する。 <p>○旋律の変化と再現に注目して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初から＜漁師の歌声や、ろをこぐ音＞の部分の終わ 	<ul style="list-style-type: none"> ・大意を理解させ、情景が思い浮かぶように教師が朗読する。 ・平安時代の絵巻などを用意できるとよい。 ・「われは海の子」も七五調のリズムである。 <p>【共通事項】旋律 音の重なり</p> <p>【評】呼吸や発音の仕方に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽「越天楽」は中学校で扱う教材であることを知らせ、音源や映像があれば活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「まなびリンク」の図を活用してもよい。 ・雅楽特有の拍の揺れや音の重なりなどに注目させる。 ・楽器はリコーダーのほか、キーボードでもよい。その場合、音色を工夫する。 ・タンギングをしないなど、日本の笛の奏法を取り入れて吹くようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・5～6人のグループがまとまりやすい。 ・各グループを教師が巡回し、演奏方法などを確認し、指導する。 ・オプションパートだけでなくピアノを加えてもよい。 <p>【評】旋律の特徴や反復と変化、声や楽器の音色、楽器同士の関わり合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲名や楽器を知らせずに聴かせ、雰囲気や演奏している楽器について、自由に意見交換させる。 ・箏については4年生で「さくら変奏曲」を聴いたことと想起させるとよい。実際に箏の演奏体験をしていれば、それを思い起こさせてもよい。 ・この曲が、春の瀬戸内海の情景を表していることについて知らせる。 ・映像資料を準備したり、実際に楽器を用意したりするとよい。 ・箏や尺八の音源も用意するとよい。 ・バイオリンとピアノのためのソナタと比較させ、気付いたことを交流してもよい。 <p>【共通事項】音色</p> <p>【評】我が国に伝わる音楽や楽器について話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では旋律や曲の感じが変わったところで挙手させ、三部形式A-B-Aの変化に気付か

りまで聴く。
・どこがどのように変化したか、気付いたことを発表する。（旋律の感じ、速度、強さ、楽器の掛け合い 他）
・今まで学んできた曲に多く見られた形式であることを確認し、宮城道雄が日本の楽器のために西洋の音楽の方法を取り入れて工夫したことを知る。

- 全体を通して鑑賞する。
 - ・自由に聴き、曲のよいところや面白いところについて聴き取ったことを基に、「春の海」の紹介文を書く。

せる。
・感じたことや気付いたことなどをメモしながら鑑賞させるとよい。
・A-B-Aの曲は「マルセリーノの歌」「ハンガリー舞曲第5番」などがある。
【共通事項】旋律 反復 変化 速度
【評】曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりについて話し合う活動を通して「知識」を評価する。
【評】旋律の特徴や反復と変化、楽器の音色や楽器同士の関わり合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」について評価する。

【 備 考 】